

学校運営の改善に直結する学校評価の方法

札幌市立札幌中学校

I はじめに

保護者・地域との連携を目指して

1 本校における学校評価のねらい

本校においては、学校教育目標『未来を開く逞しさを ～学ぶよろこび 豊かな心 逞しい心身』に向けて、日々、教育活動を展開している。このような学校運営において、具体的な目標を設定し、その達成状況を整理して取組の適切さを検証することにより、組織的・継続的に学校改善を図ることを学校評価のねらいとしている。当然、このねらいを真に実現していくためには、教職員の思い込み・自己満足を排除し、保護者・地域との協力・連携が重要になってくるが、現実にはまだ、学校側の働きかけが不十分なためか、十分な関係は出来上がっていないとは言い難い。

そこで、これまでの方法を反省し、今まで以上に家庭や地域に情報発信するとともに、学校評価の内容を公表し、信頼される学校づくりを目指していく必要があると考えた。

2 昨年度までの学校評価の結果をもとにした改善点

学校評価委員会で昨年度までの学校評価の結果をもとに検討した結果、次の3点を今年度の改善点として取り組んでいくこととした。

- ①学校関係者評価委員会の新設
- ②評価項目の検討・見直し（項目を絞る方向で）
- ③評価結果を次年度に直接つなげる工夫

II 本校の学校評価システム

年度内早期からの学校評価体制の構築

1 自己評価の充実を図る組織体制

本校の自己評価は、従来から教務部と学校評価委員会が中心となり、具体的には以下の要領で進めてきた。

- ①前期反省(学年・校務・個人)のとりまとめ及び、前期反省職員会議
- ②年度末反省(学年・校務・個人)のとりまとめ及び、年度末反省職員会議
- ③学校評価委員会による学校評価アンケートの分析・次年度への方向性

①については、7月中にとりまとめを行い、9月上旬の職員会議で、反省点・改善点を教職員全体で確認し合うことで、行事・日課などをよりよい方向に導く効果が得られている。早めに反省を行うことで、関係校務部・学年は綿密な検討が可能で、②の年度末反省では、具体的な検討・協議を行うことができる体制になっている。

また、3年前から実施している③のアンケート結果も、徐々に本校学校評価における位置付けが増してきており、重視されるようになってきている。

2 学校関係者評価委員会

今年度から新たに立ち上げた委員会で、実際のところは、手探り状態で進めている段階であるが、学校評価アンケートの結果等を構成員が検討・意見交流とともに、自己評価書を基に学校の自己評価が適切に行われているか、学校改善に向けての取組が行われているかなどについて検証することで、次年度以降の教育活動の改善策になる見通しが出てきている。

Ⅲ 学校評価の一年間の流れ

月	自 己 評 価			学校関係者評価
	学 校 (教職員)	生 徒	保護者・地 域	学校関係者評価委員会
4	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議(学校経営方針) 年間推進計画立案 土曜授業参観 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査 (3年のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> 入学式 学級PTA PTA総会 	
5	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観 		<ul style="list-style-type: none"> 学年PTA 	
6	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価委員会 (年間計画設定) 	<ul style="list-style-type: none"> 前期教育相談アンケート (いじめ調査含む) 前期教育相談 		
7	<ul style="list-style-type: none"> 学期末懇談(三者) 前期反省 (学年・校務・個人) 	<ul style="list-style-type: none"> 通知表配布 		<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会の設置
8	<ul style="list-style-type: none"> 研修係：学校評価推進協議会(東京)参加 			
9	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価委員会 前期反省職員会議 			
10	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭(保護者公開) 	<ul style="list-style-type: none"> 後期教育相談アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 学年学級PTA 	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会 (評価のねらい/流れ説明)
11	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価委員会 (アンケート内容決定) 合唱コンクール(公開) 	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市いじめ調査 後期教育相談 (いじめ調査含む) 		
12	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート実施 学校評価委員会(結果分析) 学期末懇談(三者) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート実施 通知表配布 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果送付
1	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会からの意見公表(教職員へ) 年度末反省 (学年・校務・個人) 			<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価委員会 (アンケート結果分析および意見交流)
2	<ul style="list-style-type: none"> 年度末反省職員会議 学校便り・HPで学校評価アンケート結果の公表 評価書作成 		<ul style="list-style-type: none"> 新入生保護者説明会 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 卒業証書授与式 修了式 	<ul style="list-style-type: none"> 通知表配布 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員会 (評価書提示) 卒業式 	

IV 学校評価の方法

1 自己評価

項目の精選を図る

(1) 項目の設定

昨年度までの7分野20項目から、今年度は資料1にあるとおり、8分野15項目に内容を絞ることとした。理由は過去3年間、20項目で行い、ある程度の傾向を読みとる成果が得られたことと、項目を再度精査してみたところ、同内容のものもあり、15項目でも十分評価可能と判断したためである。

評価の内容は、それぞれ文言は多少異なるが、教職員・生徒・保護者ともに同項目で問い、それぞれの意識の相違を明確にできるようにした。今後、3年間は質問項目を変えず変化の推移を見ていく予定である。

また、今回は保護者用質問用紙に自由記入欄を設け、意見・要望も記入できる形に工夫した。

保護者用マークシート

マークシート方式による効率化

(2) 効率的なアンケートの実施方法

本校では、昨年度からアンケート集計の効率化を図るため、マークシート方式を導入している。これはコンピューターで無料ソフトがダウンロードできるので、マークシート印刷用のテンプレートも入手でき、集計もスキャナー(連続読み取り型)使用で時間がかからない。また、グラフ化もすぐ可能で、大変便利である。ただ、難点としては、マークシート用紙が1枚14円ほどするので、全体として費用がかさんでしまう点と専用のスキャナーが必要となる点である。

三者の違いが見える 評価結果

(3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

学校評価委員会が、集計・グラフ化(資料2)したものをメンバー全員で昨年よりも時間をかけて検討・分析した。そして、2学期最後の職員会議で時間をかけ、教職員全体で共通理解を図っていった。

予想通り項目によっては、教職員と生徒・保護者との意識に大きな差が見られたり、意外に差異がなかったりと興味深い結果が得られた。また、今回はじめて設けられた自由記入欄にも約1割の保護者が記入した。

(4) 改善策の検討

今回の結果から、本校の教育活動の課題が明らかになったが、今年度からさらに学校関係者評価委員会にもこの結果を報告・検討してもらい、出た意見を校内年度末反省につなげてもらう流れをつくることにした。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

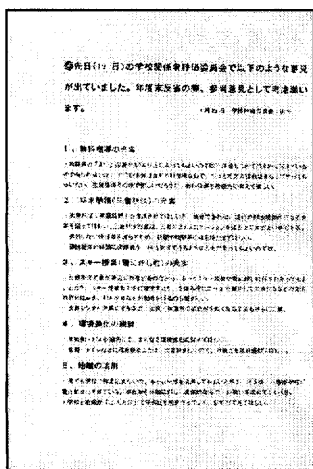
今年度から新たに設置された「学校関係者評価委員会」の構成は次の通りである。

- ・学校評議委員4名 ・PTA代表3名(PTA役員)
- ・地域代表1名(連合町内会長)
- ・学校側4名(校長、教頭、学校評価委員会代表・副代表)

以上の構成員によって、評価項目やアンケート内容の適切さや自己評価結果の適切さについて評価し、それをもとに学校改善に向けた具体的な意見を交流することを主な役割ととらえ、10月14日と翌年1月19日の2回にわたって、本校校長室にて委員会が開かれた。

(2) 学校関係者評価の生かす取組

1回目の委員会では、今年度の学校評価についての方法や昨年度までの経緯を説明し、基本的な進め方を確認する場とした。2回目では、12月初めに実施した学校評価アンケートの結果をもとに、「学校評価委員会」での分析を説明し、それに対する感想・意見などを率直に出し合ってもらい、校内年度末反省に参考意見（左表）として反映させていくこととした。今後、どの程度この委員会の意見（評価）が、具体的な形となって学校改善に生かされていくかは、まだ始まったばかりで未知数だが、道筋ができたことに対しては、委員からも評価する声が出ていた。



V 評価結果の公表

1 公表の方法

本校では、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

- ・学校だより
定例発行とは別に、紙数を増やして家庭に配布
- ・学校ホームページ
「学校評価アンケート結果」の表題で、学校便りに載せたものと同様内容をホームページ上で公表

2 公表の効果

本校では、昨年から本格的な公表を始めたばかりで、システムとして完全に定着したとは言い難いが、学校だより・ホームページ等に継続して掲載していくことで、保護者・地域の方々の目に触れる機会も増え、本校の教育活動への理解が深まるきっかけとなるのではないかとと思われる。来年度は、PTA総会での報告も検討されている。

VI 成果と課題

〔成果〕

- ・今年度から始まった、学校関係者評価委員会を組み込むことによる学校評価の仕組みは、今後、保護者・地域にも広く学校の現状を伝え、学校運営への連携意識を高めていくことが期待できる。
- ・過去3年間の取組の反省に立ち、評価項目の見直しやアンケートでの質問内容を再検討することによって、より良い評価ができた。
- ・学校評価委員会・学校関係者評価委員会が機能することにより、その活動成果が次年度への学校改善に反映されるシステムが出来上がった。

〔課題〕

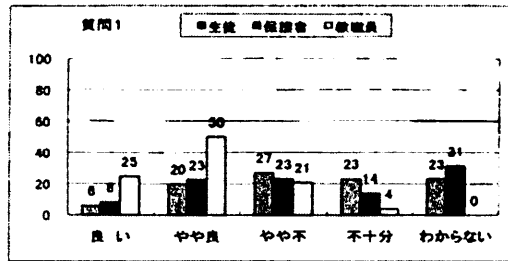
- ・現状では、まだまだ、学校に関心が薄い保護者も多く、授業参観などの出席率も学年が上がるとともに低下傾向にある。地域も学校や生徒に対し、厳しい意見を寄せてくることがしばしば見られる。このような保護者・地域の傾向を改め、日常的な家庭・地域との連携をさらに強化する工夫が求められている。

【参考文献】

- ・「学校関係者評価を活かしたよりよい学校づくりにむけて」 文部科学省
- ・「札幌市の学校評価」 札幌市教育委員会

評価項目とねらい ～札幌中学校 21 年度学校評価～

運営	項目	ねらい
学校運営	1-教育方針について	重点目標 「一人一人が認められるよろこびを実感できる学校づくり」 —貫ってうれしい通知表をめざして—
	2-情報の伝達	学校の情報が十分に発信されるとともに、生徒・保護者の意見・要望・相談への対応を通して、双方のコミュニケーションを図る。
教科指導	3-授業の理解度	どの教科についても、教科書に示された内容について、概ね理解できることをめざす。
	4-先生への相談	一人一人の学習の理解度を把握し、つまずきに応じた教育をすすめる。
	5-成績の納得度	自ら学習の理解や定着度を評価し、成果や課題の自覚を促す。
生徒指導	6-きまりの指導	社会人として守るべきマナーやモラルを身に付け、正しく生活することができることをめざす。
	7-思いやりの指導	生命の大切さを実感し、他者を理解し、互いに認め合いながら、豊かな社会をつくろうとする態度の育成をはかる。
	8-相談の受け入れ	一人一人のつまずきや悩みに応じたきめ細かな相談活動を進める。
特別活動	9-学校行事への参加	学校行事への参加を通して、望ましい人間関係、基本的なモラル、生活上のルール、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てる。
	10-生徒会活動	生徒一人一人が集団や社会の一員として、より良い生活を築こうとする自主的、自治的活動を進める。
	11-校内外の環境美化	校舎、教室内外の美化・整理整頓、施設・設備の充実をすすめる。
部活動	12-部活動の充実	縦軸や横軸の人間関係の中で、意欲や生きがいを高め、心身を鍛える教育活動をすすめる。
道徳	13-道徳教育の充実	礼儀や言葉遣いはもとより、規律ある生活、生命を尊重する心や善悪の判断、文化や伝統の尊重、国際理解にかかわる教育の充実をすすめる。
連携	14-家庭と学校の連携	学校からの情報の発信のほか、PTA 活動、参観授業、懇談会、個別相談を通して、相互のコミュニケーションを図る。
全体	15-入学の満足度	学校生活全般を通して、子どもたちは学校が満足できるところと感じている。



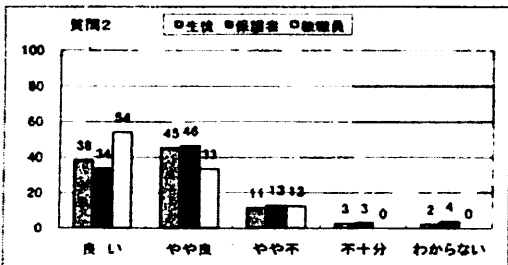
<学校運営>学校の教育方針や、今、学校が力を入れていること(「一人一人が認められるよ
ろ」)をどのくらい知っているか。・・・列生徒

<学校運営>学校の教育方針や今年度の重点目標(「一人一人が認められるよ
ろ」)をどのくらい知っているか。・・・列保護者

<学校運営>学校は、学校の教育方針や今年度の重点目標(「一人一人が認められるよ
ろ」)をどのくらい知っているか。・・・列教職員

～分析～

・生徒・保護者ともに教育方針や今年度の重点が、あまり浸透していないことが分かる。
教室前面に掲示したり、学校便りやPTA集金資料の表紙に常に載せたりするなど、生徒・保護者の目に触れる機会を
多くしていく工夫が必要であると思われる。



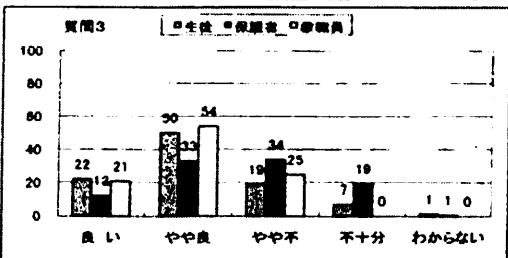
<学校運営>学校は、あなたや保護者に学校の様子がよく分かるように、配布物(学校だより、学
年だよりなど)で必要な情報を伝えてくれていますか。・・・列生徒

<学校運営>学校だより、学年だより、後援だより、給食だより、ホームページなど、学校からの情
報提供は十分ですか。・・・列保護者

<学校運営>学校は、情報を十分に発信し、生徒や保護者とのコミュニケーションを図っていますか。
・・・列教職員

～分析～

・生徒・保護者・教職員ともに「良い」「やや良い」が80%を超えており、よい結果となっている。
ただ、一部に、プリント類を保護者にあまり見せていない生徒もいるようなので、配布の際にきちんと渡すよう粘り強く
指導していくことも必要である。
・ホームページの更新が滞りがちなので、今後、気をつけていきたい。



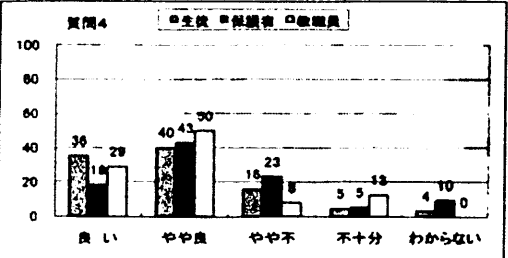
<教科指導>あなたは、先生の説明や授業内容を理解することができますか。・・・列生徒

<教科指導>お子さんは、授業内容を理解していると思いますか。・・・列保護者

<教科指導>学校は、学習指導の研究・推進に努めていますか。・・・列教職員

～分析～

・生徒の理解度は、「良い」「やや良い」合わせて70%を超えているが、保護者は45%である。これは、保護者の教科指導に対する
要求水準や期待の高さの反映ともいえるので、その期待に応えられるよう教師側の努力が必要である。



<教科指導>先生方は、学習・進路について、適切なアドバイスをしてくれますか。・・・列生徒

<教科指導>先生方は、学習や進路について、適切なアドバイスをしてくれますか。・・・列保護者

<教科指導>学校は、進路(教育)に関する推進に努めていますか。・・・列教職員

～分析～

・生徒と教師とは、ほぼ同認識の結果が出ているが、保護者の「良い」が低く、「やや不十分」が高い。
学校での教育相談週間の取り組みが、保護者に伝わっていないことも考えられるので、相談内容を記した『教育相談シート』のような
ものを工夫し、学校での相談活動の内容が、保護者に伝わるようにすることも、一考に値すると思う。